

1. 件 名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構との審査の進め方に関する面談

2. 日 時：令和4年4月13日（水） 13：30～14：20

3. 場 所：原子力規制庁10階南会議室

#### 4. 出席者

原子力規制庁

小野審議官

原子力規制部 研究炉等審査部門

志間安全規制管理官（研究炉等審査担当）、来住管理官補佐、小多係長

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

板倉副理事長、三浦理事、大島理事

安全・核セキュリティ統括本部 奥田部長 他1名

#### 5. 要 旨

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「機構」という。）から、機構の新体制及び高速実験炉「常陽」の審査について説明があった。

原子力規制庁からは以下の点を指摘した。

- ・機構の新体制について、当初の目標を実現するためには、周囲との連携が不可欠であり、経営層でグリップして、組織の活動がうまく回ることを期待している。
- ・常陽の審査については、SIMMER コードの要素評価やナトリウム火災などの論点が残っているが、その他に大きな論点はないと考える。一方で、設工認段階に移行した際の工事量のイメージが持てない。スケジュールにおいて、どのような点が律速になるのか。

これに対し、機構からは以下の回答があった。

- ・新体制の運営については、ご指摘の点を踏まえ、安全最優先で取り組んで参る所存。
- ・常陽の工事は、耐震補強が最も律速になると思われる。狭いところに複雑に設置されている配管をどのように合理的に補強するかが課題。具体の点については、現地調査の際に改めて説明する。

これらに対し、規制庁から、了解した旨回答した。

#### 6. 配布資料

安全・核セキュリティ統括本部の組織体制と要員構成

JAEA「常陽」の審査に係る相談等について

以上